

Ⅱ 委託研究課題概要

＜研究概要様式＞

【2020年度採択 連携研究スキームによる研究】

課題番号(e-Rad課題ID): 20353771

研 究 テ ー マ : 「超高齢社会における社会・健康問題の解決に資する学際的研究」

委 託 研 究 課 題 名 : 「成熟社会における食の価値に関する学際的研究」

1 研究実施期間(西暦): 2020年度～2022年度(3年間)

2 予算規模: 8,700千円(2020年度)

3 中核機関・役職・研究総括者
東京大学 教授 中嶋 康博

4 研究の目的・達成目標

成熟社会(超高齢化+SDGs+ポストコロナ)における豊かな食とは何かを学際的に研究し、消費者がその豊かな食を選択できるようにするために、「食の価値」をどのように伝達すればよいか、その仕組みを実践的に検討する。

5 研究の内容および実施体制

① 「食の価値」仮説の理論的検討

成熟社会で多様化する消費者の食への関心を「食の価値」と定義し、それが主要3要素(品質、健康、倫理)から決定されること、それら要素を構成する具体的な事項を、経済・心理学的に検討し、成果を研究班全体で共有する。

(東京大学大学院農学生命科学研究科)

② 「食の価値」情報の把握

消費者の「食の価値」の識別力を科学的に解析し、着目すべき項目を改めて精査する。それを踏まえつつ、3要素間の関係性や重み付けを経済・心理学的に明らかにして、「食の価値」を表示するための項目を提案する。

(東京大学大学院農学生命科学研究科)

③ 「食の価値」の基準化・表現法の開発

「食の価値」の表現基準について品質評価学からの分析結果も踏まえつつ総合的に取りまとめる。あわせて新技術(フィールドサーバー、360度カメラ等)の利用可能性を検証しながら、表示するための情報収集手法も検討する。

(東京大学大学院農学生命科学研究科、農業・食料産業技術総合研究機構)

6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

両研究が連携することで、DXが進んだポストコロナ時代においても高齢者が高度な食の選択を容易に行えるように、インクルーシブな食料供給システムを設計するための学術的な礎の構築の進展が期待される。

【連絡先: 東京大学大学院農学生命科学研究科 03-5841-5320】(中核機関の連絡先)

<研究概要図>

委託研究課題名	成熟社会における食の価値に関する学際的研究
---------	-----------------------

研究の目的・達成目標

成熟社会（超高齢化＋SDGs＋ポストコロナ）における豊かな食とは何かを学際的に研究し、消費者がその豊かな食を選択できるようにするために「食の価値」をどのように伝達すればよいか、その仕組みを実践的に検討する。

学際的な研究組織＋産業界からの協力

脳科学研究班	東京大学・生物化学研究室
経済・心理学研究班	東京大学・食料・資源経済学研究室
品質評価学研究班	農研機構・食品品質評価制御ユニット
アドバイザリーボード	オイシックス・ラ・大地、青果物流通研究会、セブン＆アイ・ホールディングス、ソフトバンク東京シティ青果、日本生活協同組合連合会

研究の内容および実施体制

- ①「食の価値」仮説の理論的検討
・人文・社会・自然科学文献レビュー など
- ②「食の価値」情報の把握
・官能検査・脳波検査・fMRI検査
・「食の価値」構造の計量経済分析 など
- ③「食の価値」の基準化・表現法の開発
・フィールドサーバー・360°カメラの活用
・食感覚・感性用語による言語化
・「食の価値」の見える化 など

※アドバイザリーボードからの提案・評価・協力



食の価値ホイール（仮説）

政策研究との連携の意義、期待される波及効果

両研究が連携することで、DXが進んだポストコロナ時代においても高齢者が高度な食の選択を容易に行えるように、インクルーシブな食料供給システムを設計するための学術的な礎の構築の進展が期待される。